

平成30年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

平成30年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校又は義務教育学校の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

平成30年2月23日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約44,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校及び義務教育学校においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の実態に基づいた学習指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、「都立高校学力スタンダード」の策定に活用することができます。

各区市町村教育委員会、各中学校及び義務教育学校並びに高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

平成30年6月

東京都教育委員会

目 次

I	平成30年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

参考資料

1	平成30年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	平成30年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

I 平成30年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らし、基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

平成30年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（平成30年2月23日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数の受検者を抽出した。
小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
37,233人	37,235人	36,980人	41,639人	41,639人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
151校	151校	150校	165校	165校

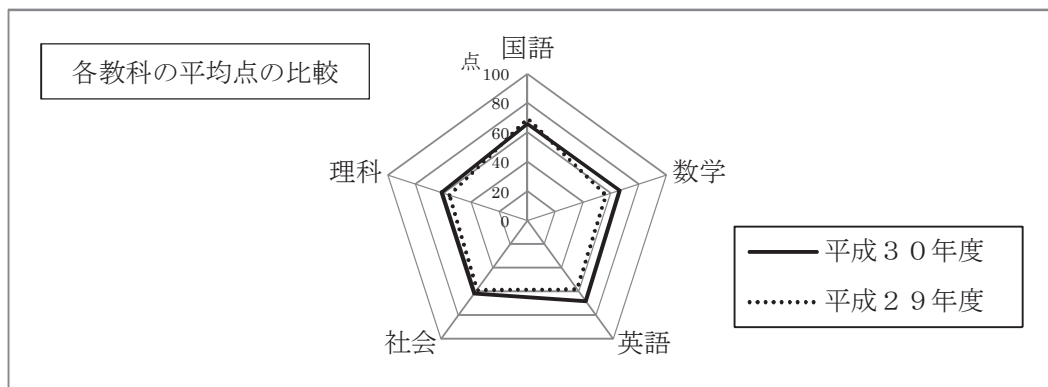
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
65.9点 (69.5点)	66.5点 (56.3点)	68.0点 (57.8点)	61.5点 (58.6点)	61.5点 (55.9点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、平成29年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

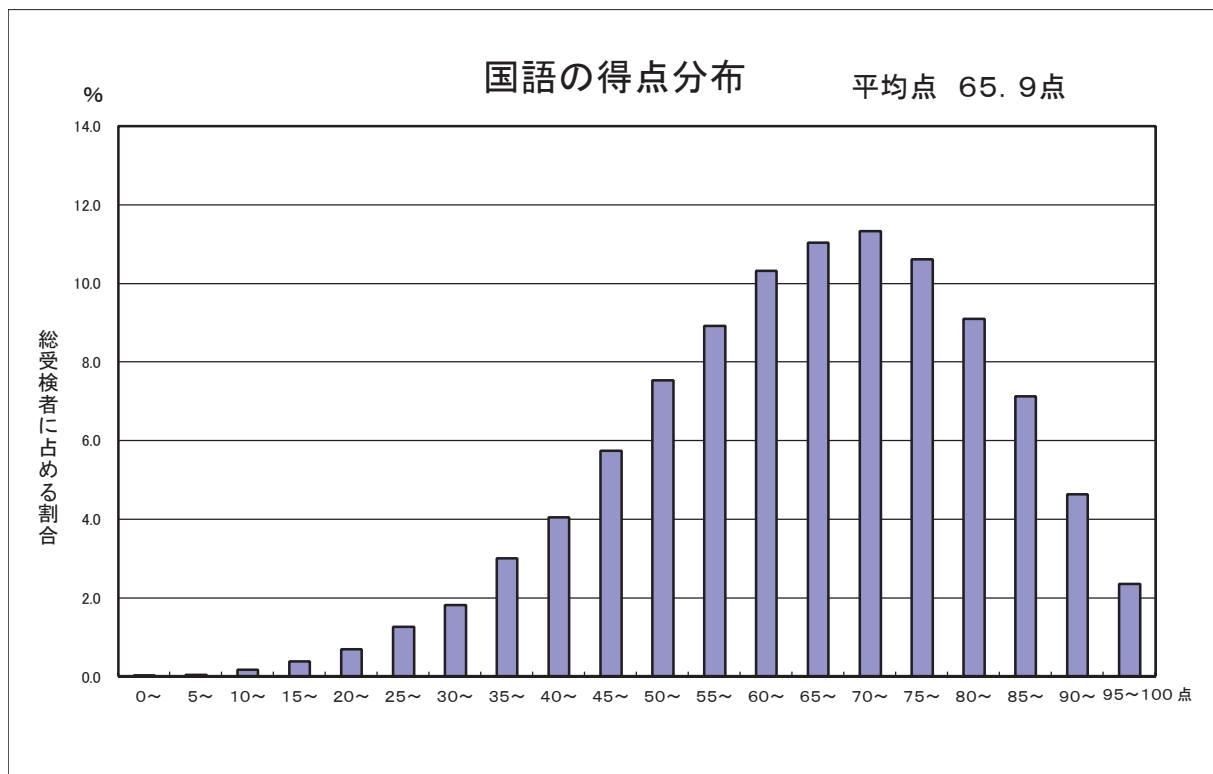
ア 出題の方針

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるとともに、伝え合う力や思考力及び想像力を総合的にみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、古典並びに現代の語句及び資料の内容について理解する能力をみるとともに、発言の意図を理解することを通して伝え合う力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は65.9点となり、昨年度より3.6点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の75点～79点から70点～74点に移るとともに、75点以上の受検者の割合が減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 友人が描いた古く汚れた辞書の絵を見て、人間の学ぶ営みの価値に気づき成長していく少年の姿を描いた小説を読み、表現の特徴や人物の様子、心情などを読み取る問題とした。
- 4 「意志」と「行為」の関わりについて論じた文章を読み、文脈に即して内容を正確に読み取る問題、筆者の主張を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力をみる問題とした。
- 5 漱石の漢詩に関する対談及び古典の一部を読み、歴史的仮名遣いを含む語句を答える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、要旨を捉える問題、語句のはたらきや意味を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (4)「せきはい」の正答率が低く、「ざんぱい」と読む誤答が多かった。
- 2 (2)「郷里」、(4)「仲裁」の正答率が低く、(2)は「郷理」や「郷離」、(4)は「中裁」や「忠裁」と書く誤答が多かった。
- 3 [問 1] では、「イ」という誤答が多かった。これは、「何よりもその口調がわたしの心を打った」などの表現から「わたし」の言動の意味を理解する力が十分ではなかったためと考えられる。また、[問 4] では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「指跡」が「辞書の側面にもびっしりと描かれていた」や「上野の手と彼の母親の姿を思い出した」などの表現から「わたし」の心情を十分に読み取ることができなかったためと考えられる。
- 4 [問 2] では、「ア」という誤答が多かった。これは、「能動の形式で表現される事態や行為」が、「能動の概念によって説明できるとは限らない」ことを、意志と謝罪との関係についての叙述や文脈からの的確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、[問 5] では、自分の考えの根拠として体験や見聞を挙げているものの、「自分の意志をもつこと」というテーマにだけ言及した解答が目立った。これは、文章全体を通して表現されている筆者の主張を十分に理解できなかつたためと考えられる。
- 5 [問 2] では、「ウ」という誤答が多かった。これは対談中の「車の両輪」が何を表現し、どのような内容かを理解できなかつたためと考えられる。また、[問 4] では、「ア」と「エ」という誤答が多かった。これは、対談と対談に関連する文章のように複数の資料を対応させて理解する力が十分ではないためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	70.1%	70.3%
	(2)	2	62.9%	
	(3)	2	91.2%	
	(4)	2	33.4%	
	(5)	2	93.9%	
2	(1)	2	77.6%	63.4%
	(2)	2	61.5%	
	(3)	2	71.7%	
	(4)	2	33.2%	
	(5)	2	73.0%	
3	※ [問 1]	5	47.8%	68.7%
	※ [問 2]	5	75.3%	
	※ [問 3]	5	79.0%	
	※ [問 4]	5	65.2%	
	※ [問 5]	5	76.4%	
4	※ [問 1]	5	61.9%	☆62.8%
	※ [問 2]	5	43.5%	
	※ [問 3]	5	70.4%	
	※ [問 4]	5	58.2%	
	[問 5]	10	☆79.9%	
5	※ [問 1]	5	58.2%	60.2%
	※ [問 2]	5	46.0%	
	※ [問 3]	5	63.7%	
	※ [問 4]	5	51.1%	
	※ [問 5]	5	81.9%	

(注 1) ☆は部分正答も含めた割合

(注 2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1, 2の正答率の高さから、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えられるが、誤答の内容から語彙が十分ではないと考えられる。漢字や語句の学習において、文章や話の中で漢字や語句を正しく使うことを通し、使い方に慣れさせるとともに、語彙を豊かにすることが大切である。また、「へん」や「つくり」など漢字の構成要素に着目した指導や、文章を書かせる際などに辞書等を用いて漢字の正確な形、語句の意味や用法を確認させることで、漢字の基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせることが必要である。
- (イ) 3の [問 3]、[問 5] の正答率の高さから、登場人物の心情や様子を読み取る力はある程度身に付いていると考えられるが、これまでに学習してきた知識や複数の表現を関連付けながら、登場人物の言動の意味を読み取る力は十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、多義的な意味を表す語句の文脈上での意味を吟味させたり、情景の描写や話の展開などとの関わりに着目させたりして、登場人物の言動の意味について考えさせることが大切である。
- (ウ) 4の [問 2] の正答率の低さ、[問 5] の解答の内容から、叙述や文脈に即して、文章の論旨や筆者の主張を読解する力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、文章の内容を的確に把握するために、目的に応じて段落ごとに内容を捉えたり情報を要約したりする指導や、筆者の主張に対し、根拠を明確にして自分の考えをまとめる指導が必要である。
- (エ) 5の [問 4] の正答率の低さから、複数の資料を関連付けながら目的に応じて整理し、内容を理解する力が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、目的に応じて必要な箇所を読み、文章の中で必要だと思う箇所に印を付けたり、必要な部分を書き抜いたりしながら一冊の本を最後まで読むことや多くの本を読み進めることが必要である。

(2) 数学

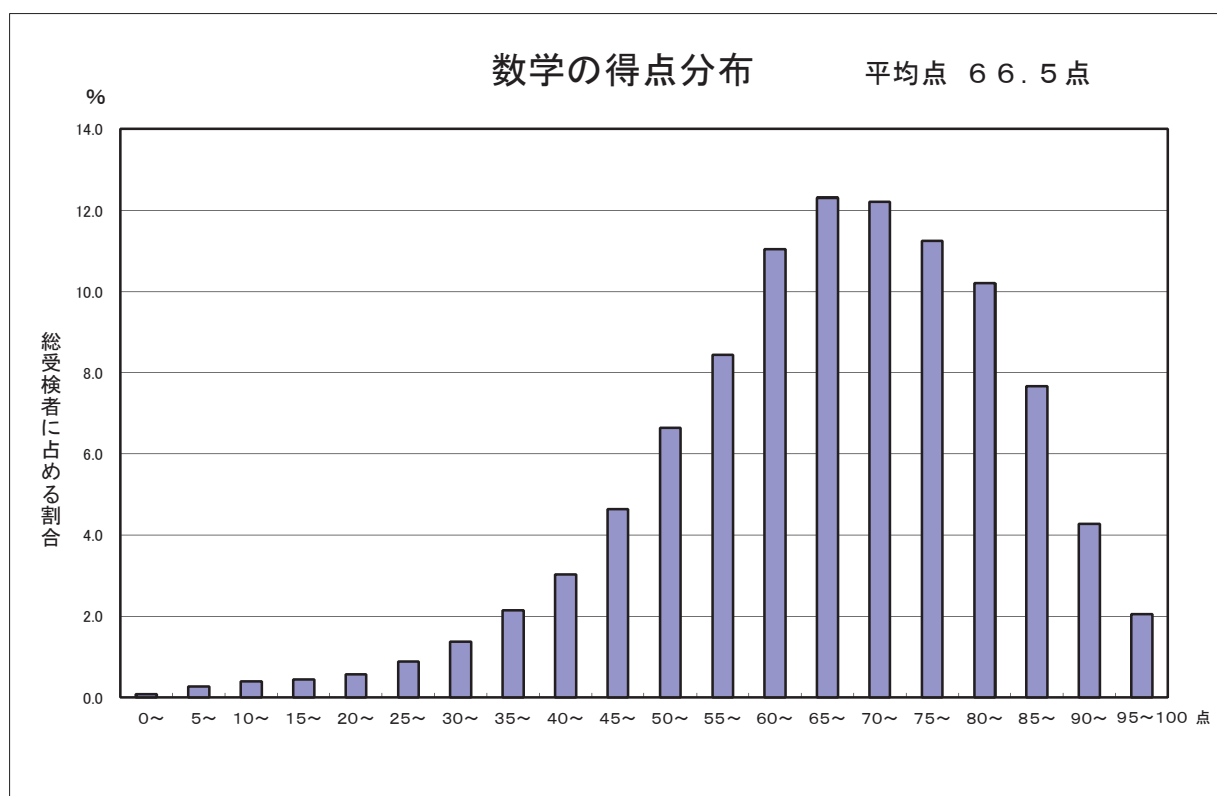
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解をみるとともに、数学的な見方や考え方、数学的な技能に関する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，資料の活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方や考え方に基づいて事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識・理解をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識・理解をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識・理解をみるとともに，図形に対する直観的な見方や考え方を基に，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は66.5点となり，昨年度より10.2点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の50点～54点から65点～69点に移るとともに，80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる問題とした。
- 2 正六角柱や円柱を題材として、表面積について数学的に考察し処理する能力や、文字を用いて推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 関数 $y=ax^2$ を題材として、変域を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、条件を満たす直線について考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 円を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の合同を証明する問題、相似な三角形の性質等を組み合わせて面積比を求める問題とした。
- 5 三角柱を題材として、空間図形における線分と面の位置関係に着目し、空間の中にできる角の大きさを求める問題、三角柱の中にできる立体の体積を求める問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問3] では、「 $7-4\sqrt{3}$ 」という誤答が多かった。これは、 $(2\sqrt{3})^2$ を誤って計算したためと考えられる。また [問7] では、「65%」という誤答が多かった。これは、「以上」の意味を正しく捉えることができず、 16°C 以上 18°C 未満の階級の度数を、 18°C 以上の階級の度数に加えたためと考えられる。
- 2 [問1] では、「ア」や「エ」という誤答が多かった。これは、角柱の表面積を求める際、2つの底面のうち1つの底面を足し忘れたり、底面の六角形を分割してできた正三角形の面積を求める際、三角形の面積の公式を誤って用いて計算したりしたためと考えられる。 [問2] では、無答率が41.9%であった。これは、文字を用いた式で数量の関係を捉え、説明する力が十分でなかったためと考えられる。
- 3 [問2] ②では、「(0, -12)」という誤答が多かった。これは、問題に示された「直線BMが原点を通るとき」という条件を、「点Mが原点に一致するとき」と捉え、点Pが曲線 ℓ 上にあるという条件の確認が十分でなかったためと考えられる。
- 4 [問2] ②では、「 $\frac{3}{4}$ 」, 「 $\frac{3}{2}$ 」という誤答が多かった。これは、基準量を $\triangle ABR$ の面積、比べる量を四角形AOPRの面積と捉えたり、基準量と比べる量の関係を誤って捉えたりしたためと考えられる。また、無答率は17.8%であった。これは、 $\triangle ACQ$ と $\triangle OBP$ が相似であることに着目できなかったためと考えられる。
- 5 [問1] では、「30度」, 「45度」という誤答が多かった。これは、空間における直線や平面の位置関係を正しく理解できなかつたり、 $\triangle CBD$ が正三角形であることを捉えられなかつたりしたためと考えられる。 [問2] では、無答率が28.3%であった。これは、三角柱の中にできる立体をすい体と理解し、底面と高さを正しく捉えたり、高さを求めたりすることができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率の高さから、基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能についてはおおむね定着しているが、3 [問2] ②及び4 [問2] ②の正答率の低さから、基礎的・基本的な事項を組み合わせて考察する力が十分ではないと考えられる。基礎的・基本的な事項を基にして、言葉や数、式などを用いて表現し、数学的に処理して問題を解決する指導を充実させる必要がある。
- (イ) 4 [問2] ①の正答率の高さから、図形の基本的な証明についてはおおむね定着しているが、2 [問2] の正答率については、例年と比較して上がってはいるものの、依然として十分とはいえないことから、文字式を利用した証明については条件を文字で表し説明する力を育む指導が必要であると考えられる。証明の問題については、問題文から条件を読み取り、式を立て結論を導くとともに、その推論の過程を相手に分かりやすく伝える指導を充実させる必要がある。また、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を一層高める指導をする必要がある。
- (ウ) 5の正答率の低さから、立体の中にできる平面等を的確に捉える力が十分ではないと考えられる。また、 [問2] の結果から、特に空間における線分と面の位置関係を捉えて空間の中にできる立体を考えることや、空間図形を平面図形に帰着させて考える指導を充実させる必要がある。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	[問1]	5	94.6%	☆87.8%	
	[問2]	5	92.3%		
	[問3]	5	80.2%		
	[問4]	5	88.4%		
	[問5]	5	92.4%		
	[問6]	5	91.3%		
	[問7]	5	80.1%		
	[問8]	5	87.2%		
	[問9]	6	☆83.2%		
2	※ [問1]	5	35.7%	☆35.8%	
	[問2]	7	☆35.9%		
3	※ [問1]	5	85.3%	56.1%	
	[問2]	※①	5		74.9%
		②	5		8.2%
4	※ [問1]	5	62.6%	☆52.6%	
	[問2]	①	7		☆76.1%
		②	5		19.2%
5	[問1]	5	20.6%	17.6%	
	[問2]	5	14.6%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合
(注2) ※は記号選択式の問題

(3) 英語

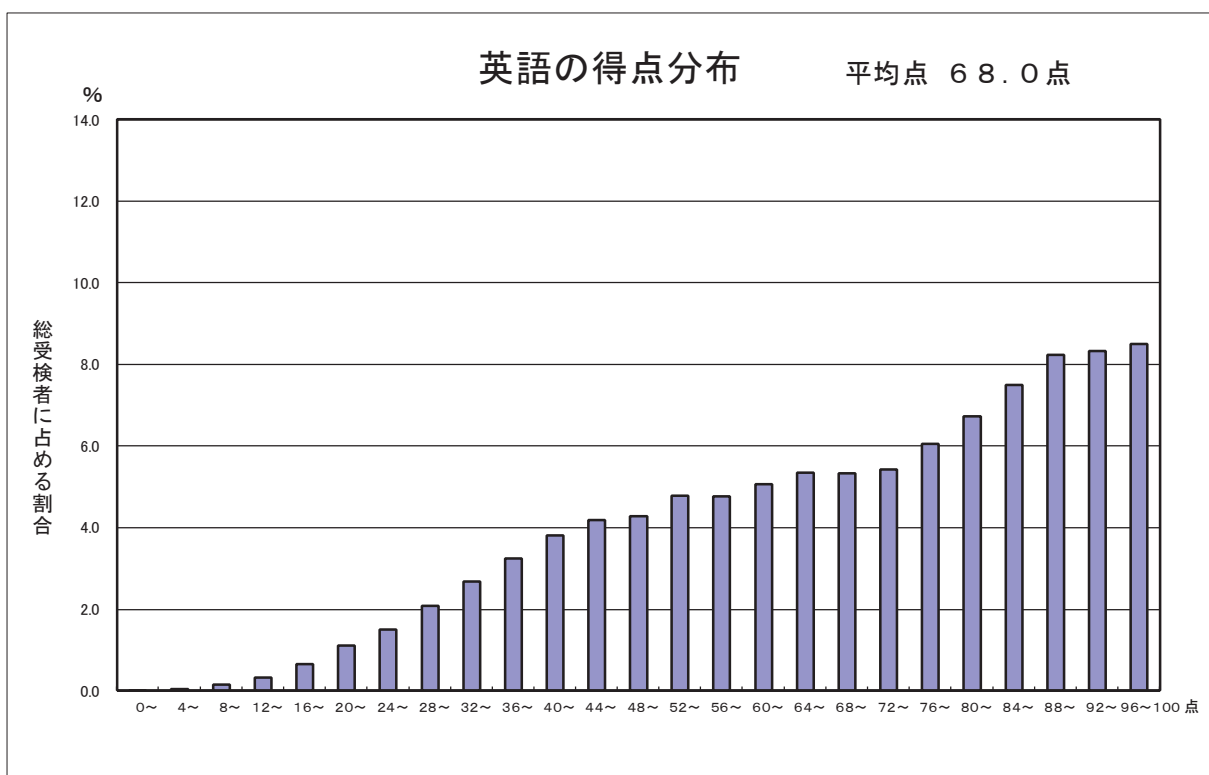
ア 出題の方針

初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は68.0点となり、昨年度より10.2点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の48点~51点から96点~100点に移るとともに、80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 駅で乗るべき電車を尋ねる対話や温泉地での外国人向けの案内などを聞き、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。
- ② 留学中の姉とその姉を訪ねた妹が公園に行き、料金や開園時間について、表を見ながら話したり、公園内を巡る順番や帰路について、案内図を見ながら話したりする場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。
また、帰国後に受け取ったEメールに対して、登場人物になったつもりで返事のEメールを完成させる場面を設定し、「今、自分が楽しんで学習していること」について、自分の考えを英語で表現する能力をみる問題とした。
- ③ 映画に登場する機械について述べ合うことをきっかけに、未来を作るのは人工知能ではなく、高校生の自分たちであると認識するという内容の対話文を読んで、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。
- ④ カナダ人の友人に都内を案内した際、事前に立てた計画のとおりに進まず複雑な感情を抱いた主人公が、計画の立案と柔軟な対応は等しく重要であることに気付くという内容の物語文を読んで、登場人物の心情の変化や物語の主題を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- ① Bの〈Question2〉では、“Beautiful yukata.”や“Beautiful flowers.”、“Beautiful view.”などとする誤答が多かった。これは、質問の後半部分の“from the windows of all the ryokan”の内容が正しく聞き取れていなかったり、解答すべき内容が不十分になってしまったりしたためと考えられる。
- ② 1では、「イ」や「ウ」という誤答が多かった。これは、表の料金設定を正しく読み取れなかったり、本文中では二人分の値段を話題にしていることが正しく読み取れなかったりしたためと考えられる。また、3(2)では、「今、自分が楽しんで学習していること」という主題に正対しておらず、自分がこれからやりたいことや自分の将来の夢について書かれた解答が見られた。これは、全体としてまとまりのある返事のEメールとするために、前後の文脈から書くべき主題を正しく読み取ることができなかつたためと考えられる。
- ③ [問4]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、下線部で問われている内容を、対話の流れに沿って正しく理解することができなかつたためと考えられる。また、[問6]では、「ア」という誤答が多かった。これは、本文の内容をある程度理解しているものの、本文と同じ内容を別の表現方法で表す場合に求められる文構造や語法についての理解が十分でなかつたためと考えられる。
- ④ [問2]では、「ウ」と「ア」を取り違える誤答が多かった。また、[問3] (3)では、「エ」や「イ」という誤答が多かった。これは、本文と同じ内容を別の表現方法で表した選択肢を正しく読み取れなかったり、問題文の内容を正しく理解していなかったりしたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) ①及び②の結果から、まとまりのある英語を聞いて、聞き取った事柄や自分の考えを英語で正しく表現する力を一層育成するために、それぞれの技能を統合した学習活動をより多く取り入れ、学習した表現方法の定着を図る指導の充実が必要である。
- (イ) ③及び④の結果から、対話の流れや物語のあらすじ、本文の大切な部分を把握する力を高めるために、まとまった量の文章を用いて時系列を整理し、登場人物の発言や行動などに注意して読むことを指導する必要がある。また、元の文章とは別の表現方法を用いて表現するような活動を通して、幅広い表現方法の定着を図る指導が一層必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
①	※A	〈対話文1〉	4	85.8%	☆72.6%
		〈対話文2〉	4	84.6%	
		〈対話文3〉	4	86.3%	
	B	※〈Question1〉	4	73.3%	
		〈Question2〉	4	☆33.2%	
②	※1	4	50.1%	☆62.1%	
	※2	4	79.0%		
	3	※(1)	4		72.6%
		(2)	12		☆46.6%
③	※ [問1]	4	75.6%	71.7%	
	※ [問2]	4	73.6%		
	※ [問3]	4	80.7%		
	※ [問4]	4	66.2%		
	※ [問5]	4	84.2%		
	※ [問6]	4	53.1%		
	※ [問7]	4	68.3%		
④	※ [問1]	4	62.0%	56.0%	
	[問2]	4	47.2%		
	※ [問3]	(1)	4		70.0%
		(2)	4		64.3%
		(3)	4		44.7%
	※ [問4]	(1)	4		49.6%
		(2)	4		54.1%

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(4) 社会

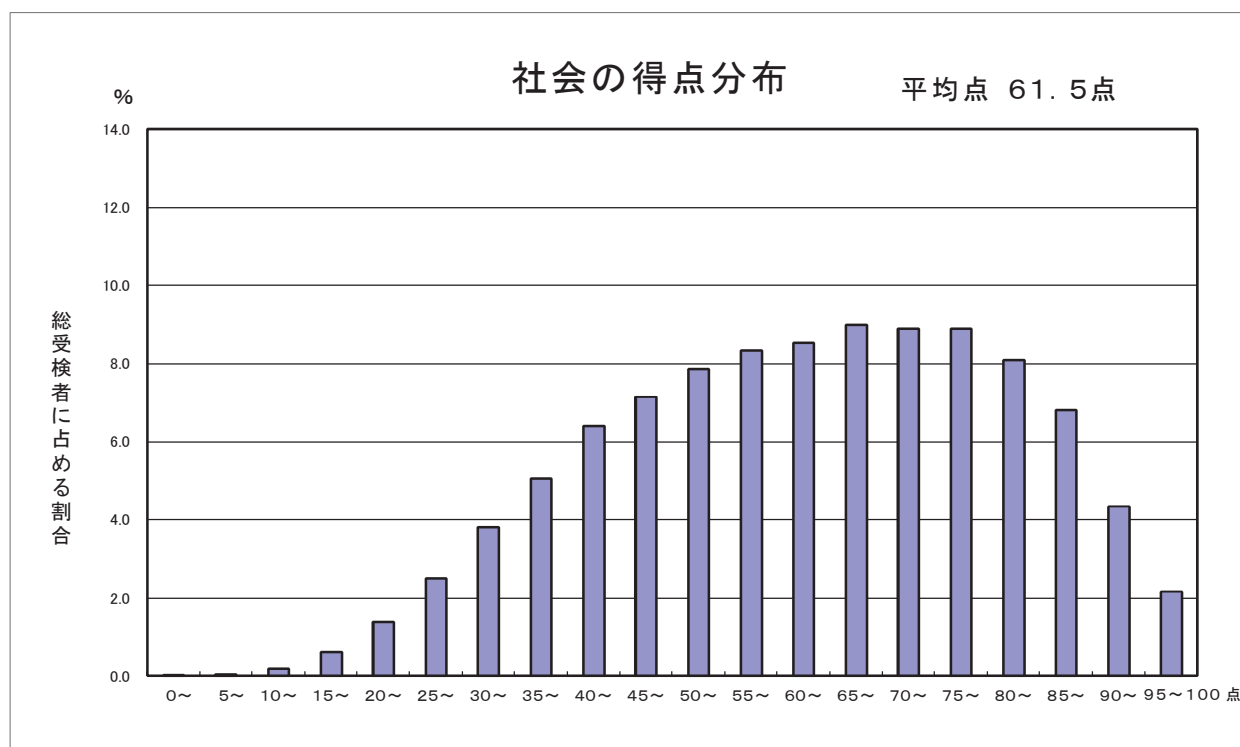
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図や年表等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.5点となり，昨年度より2.9点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の55点～59点から65点～69点に移るとともに，60点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 景観写真から得られる地理的情報を基にした地形図の読図，世界の古代文明が興った地域，財政を問う問題とした。
- 2 資源・エネルギーを題材として，油田が分布している地域の気候，産業別の就業人口の割合や石炭の産出量・輸入量・輸出量及び粗鋼の生産量を基にしたそれぞれの国の特色，日本との結び付き及びアルミニウム生産と国土の様子を基にしたそれぞれの国の特色について問う問題とした。
- 3 農業を題材として，我が国の自然環境と農業の様子，産業別の就業人口の割合，耕地面積に占める水田及び畑の割合，農業産出額等を基にしたそれぞれの道県の特徴，富山県砺波市の農地が整備された結果，道路がどのように変化したかについて問う問題とした。
- 4 情報を題材として，奈良時代から室町時代にかけて著された書物等の時期，各地の調査を行った日記に書かれた出来事，我が国の発展に貢献した人物に関する主な出来事，情報の伝達技術が発達した時代背景と新たな技術開発の様子について問う問題とした。
- 5 決まり（ルール）を題材として，平等権を保障する日本国憲法の条文，条例，食糧法の施行による米の総需要量及び米の生産量の変化，国際的な取決めなどに影響を受けて変化した我が国と世界の諸地域との貿易額の推移について問う問題とした。
- 6 交流による世界の発展を題材として，都市の交通の様子とその都市が属する国の歴史など，環境保全の取組，国際的な問題を解決するための国際連合の取組について問う問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	95.7%	65.9%
	※〔問2〕	5	28.4%	
	※〔問3〕	5	73.5%	
2	※〔問1〕	5	53.8%	45.6%
	※〔問2〕	5	38.8%	
3	※〔問1〕	5	75.7%	☆72.4%
	※〔問2〕	5	75.1%	
	〔問3〕	5	☆66.5%	
4	※〔問1〕	5	41.6%	52.1%
	※〔問2〕	5	62.4%	
	※〔問3〕	5	58.5%	
	※〔問4〕	5	45.8%	
5	※〔問1〕	5	94.5%	☆72.0%
	※〔問2〕	5	78.1%	
	〔問3〕	5	☆60.2%	
	※〔問4〕	5	55.3%	
6	※〔問1〕	5	24.4%	38.8%
	※〔問2〕	5	59.4%	
	※〔問3〕	5	32.5%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合
(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，古代文明の興りや地理的な位置についての理解が十分ではないためと考えられる。
- 2 〔問2〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，産業別の就業人口の割合や石炭の産出量・輸入量・輸出量及び粗鋼の生産量から，世界の諸地域の地域的特色の理解が十分ではないためと考えられる。
- 3 〔問2〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，産業別の就業人口の割合，耕地面積に占める水田及び畑の割合，農業産出額，農業産出額の上位3位の品目と農業産出額に占める割合から，我が国の地域的特色を理解する力が十分ではないためと考えられる。
- 4 〔問4〕では，「ウ→イ→ア→エ」という誤答が多かった。これは，我が国における経済や科学技術が著しく発展した高度経済成長と，バブル経済の違いについての理解が十分ではないためと考えられる。
- 5 〔問4〕では，「ア」という誤答が多かった。これは，説明文とグラフから読み取れる情報を関連付ける力が十分ではないためと考えられる。
- 6 〔問3〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，1970年代以降の国際的な問題と国際連合の取組に関する理解が十分ではないためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については，学習全般にわたって地球儀や地図帳を活用し，地理的技能の習得を図るとともに，世界の地域構成を大観させる指導を継続させることが必要である。また，地理的事象について，複数の地理情報に関連付けて考察し，地域的特色を理解させる学習の一層の充実が求められる。
- (イ) 歴史的分野では，世界の歴史を背景にした我が国の歴史について理解させる指導を継続させることが必要である。また，様々な資料を活用し，歴史的事象を多面的・多角的に考察させる学習の一層の充実が求められる。
- (ウ) 公民的分野については，様々な資料を多面的・多角的に考察し，事実を正確に捉える学習の一層の充実が求められる。
- (エ) 論述問題については，社会的事象から課題を見出し，多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付けさせる学習の一層の充実が求められる。

(5) 理科

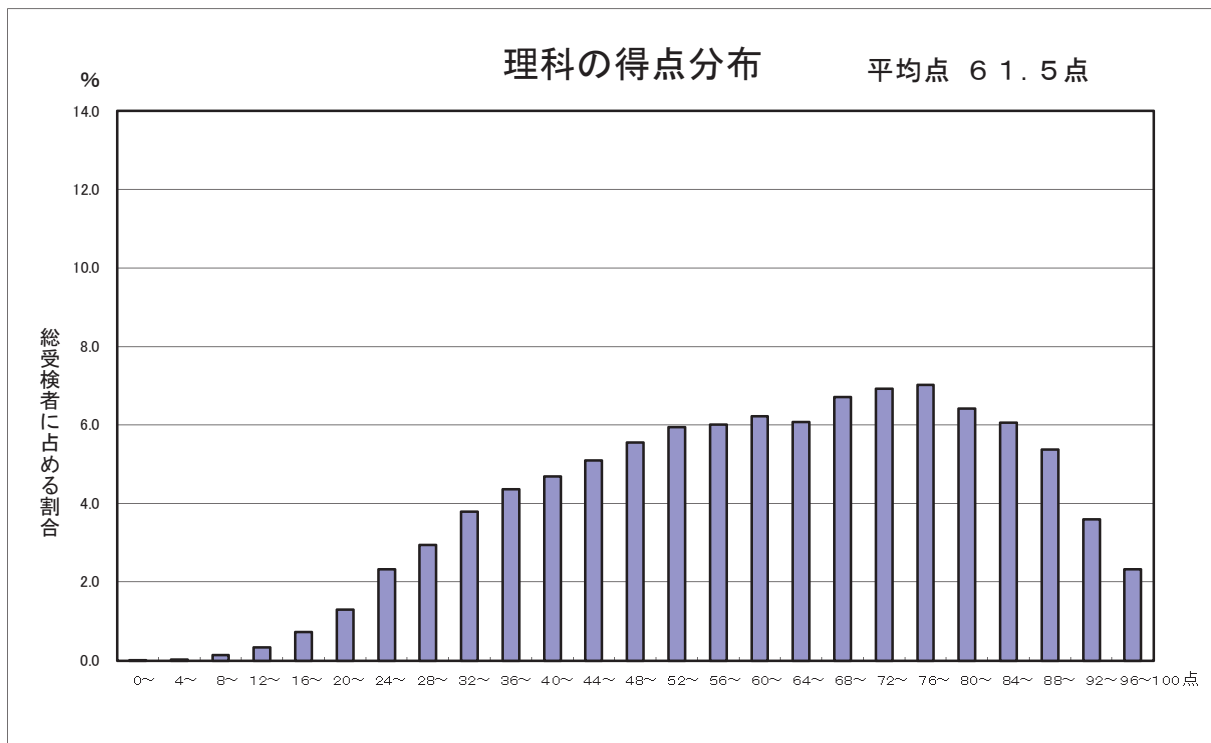
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験や探究的な活動を通して科学的な思考力や表現力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）の各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、科学的な思考力や複数の領域にわたる事項の知識・理解をみる。
- 3 地学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察を通して科学的な思考力をみる。
- 4 生物的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力をみる。
- 5 化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 6 物理的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.5点となり、昨年度より5.6点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の56点～59点から76点～79点に移るとともに、80点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる問題とした。
- 2 登山の際に気付いた事象に関する探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 3 地層の観察を通して地層の成り方や過去の様子についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 4 植物の体のつくりと働きを調べる実験を通して、葉や茎のつくりと蒸散・光合成との関連についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 5 水溶液と金属を用いた実験を通して、電池や電気分解についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 6 電流と磁界の関係を調べる実験を通して、磁界中の電流が受ける力や電磁誘導についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問 4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、60℃で57.4gのミョウバンを溶かした飽和水溶液を冷やしたと考えるなど、再結晶によって得られる物質の質量についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 2 〔問 3〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、鉄と化合する物質が炭素であると考えするなど、身近に利用されている鉄粉の酸化による発熱についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 3 〔問 4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、地層⑤と地層④の間で大地の変動が起きたと考えるなど、大地の変動と地層の重なり方の規則性についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 4 〔問 3〕では、仮説を検証する際に得られるべき実験結果を正しく選択できない誤りが多かった。これは、ポリエチレンの袋の中にある二酸化炭素が葉や茎から取り入れられることを確かめるには、どのような実験結果が得られればよいかを思考する力が十分でなかったためと考えられる。
- 5 〔問 3〕では、水酸化ナトリウムの電離をイオン式で表した誤答が多かった。これは、燃料電池において、水素と酸素が反応して水ができる化学変化が起こる際に化学エネルギーが電気エネルギーに変換されることの理解が十分でなく、化学反応式で表現できなかったためと考えられる。
- 6 〔問 3〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、磁石による磁界の向きがS極を出てN極に入る向きと考えて求めるなど、磁界と磁力線との関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	4	64.5%	69.5%
	※〔問 2〕	4	83.1%	
	※〔問 3〕	4	57.5%	
	※〔問 4〕	4	57.8%	
	※〔問 5〕	4	73.4%	
	※〔問 6〕	4	64.1%	
	※〔問 7〕	4	86.0%	
2	※〔問 1〕	4	64.4%	62.9%
	※〔問 2〕	4	64.9%	
	※〔問 3〕	4	59.1%	
	※〔問 4〕	4	63.1%	
3	※〔問 1〕	4	46.5%	45.7%
	※〔問 2〕	4	41.4%	
	※〔問 3〕	4	57.7%	
	※〔問 4〕	4	37.3%	
4	※〔問 1〕	4	71.4%	60.7%
	※〔問 2〕	4	55.4%	
	※〔問 3〕	4	55.3%	
5	※〔問 1〕	4	56.6%	☆36.4%
	※〔問 2〕	4	39.2%	
	〔問 3〕	4	☆13.4%	
6	※〔問 1〕	4	70.4%	☆51.8%
	〔問 2〕 作図	2	☆61.7%	
	〔問 2〕 理由	2	☆49.6%	
	※〔問 3〕	4	35.5%	
	※〔問 4〕	4	41.7%	

(注 1) ☆は部分正答も含めた割合

(注 2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) 各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着しているが、4〔問 3〕の正答率が低いことから、基礎的・基本的事項を活用して科学的に思考することに課題があると考えられる。観察・実験の結果を分析して解釈することに加え、習得した知識に基づき仮説を設定し、観察・実験によって仮説を検証することなどの科学的に探究する学習活動を充実させていくことが必要である。

(イ) 5〔問 3〕と6〔問 2〕理由の正答率が低いことから、観察・実験の結果から多角的、統合的に考察したことを、化学反応式や文章で表現する力が十分ではないと考えられる。引き続き、基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等に関連付けて考察し、表現する学習活動の一層の充実が必要である。